

あなたならどうする? ベテランインスペクター共演 インスペクション報告の実際

第三者的な立場と客観的で中立的な所見を求められるホームインスペクターですが、その出身も不動産業界から建築業界、設計業と多岐にわたります。また、インスペクション報告は事実だけを列記するものではなく、住宅購入者に安心して住まいを手に入れていただき、豊かに過ごしていただくためのツールでもあります。それゆえ報告書も、インスペクターの個性によって様々なトーンを持つのではないのでしょうか?

今回の特集では最先端で活躍する6名のホームインスペクターにご協力いただきました。「同じ条件で現場を見た時、報告にどのような違いが出てくるのか?」を見比べながら「どのような報告が依頼者にとって望ましいのか」を考えてみましょう。

※本特集で用いた物件は複数物件を組み合わせた架空のものです。

ご協力いただいたホームインスペクターの皆さん(五十音順)

朝倉 美起男氏 株式会社チアック 代表
茅野 昌男氏 かごしま長持ち住宅ぷらす 代表
熊本 茂仁氏 株式会社クマホーム 代表取締役
菅 雄治氏 Y&Y株式会社 代表取締役
野中 明人氏 望住宅設計 一級建築士事務所 主宰
松塚 智宏氏 株式会社 やまと建築事務所 代表取締役社長

※本特集では報告書は匿名で記載しています。

●文中、「Yさん一家の会話」はマーケティングプランナーにリサーチと監修を依頼し、編集部にて構成しました。一般のお客様の感じ方の参考としてください。

協力 マーケティングプランナー 三原広聡氏(有限会社トライアド)

ホームインスペクション報告を求められた物件の概況

■ 権利・売買関係の条件

買主から直接依頼のインスペクション。売主側条件としては現況引き渡し。既に契約済みで、現在ローンの金融機関審査中。3週間後に引き渡し予定。買主(依頼主)及び売買両仲介の立会いの無いまま行ったインスペクション。

■ 建物周辺状況

確認申請関係提出の有無は不明(未確認)。地盤許容応力度は30 kN/m²程度と推察されるが現地でのボーリングは行っていない。地歴は不明。当該地も隣接地も概ね平坦で擁壁などの設置は無い。

■ 建物状況

木造2階建て。1階約90m²2階約45m²。築20年。インスペクションは空家で行った。

■ 売主情報

老夫婦居住していたが、本物件売却し、子供夫婦と新居に同居予定

■ 買主情報

Yさん一家 30代夫婦。3歳男児。現在は賃貸AP居住。現住居に関しては既に家主に退去通知済み。

ホームインスペクターの皆さんには、7枚の写真をお渡しして、その画像情報のみで報告書を作成していただきました。



それでは建物各部の状況写真と、ホームインスペクターの皆さんの報告を見てみましょう。

屋根



インスペクション報告

A氏

経年劣化というよりも、メンテナンスをしていない屋根と思われます。塗り替えのメンテナンスでは収まりそうもありませんね！

B氏

屋根は立平葺き、板金の表面は経年劣化しています。また、軒先部分には板金の腐食(サビ)が見られほか、先端の板金の継ぎ目の部分が外れ開いてしまっている部分も見受けられます。この付近には、釘が屋根上から打付けられておりますが、この状況ではかえって雨漏りの要因につながる可能性が高い状況です。破風の板金は近年リフォームで修繕済みと思われるのですが、屋根面自体も劣化が進み雨水浸入のおそれが高いため、修繕が望ましいと思われます。

C氏

金属製屋根の場合、築年数の古いものはカラー鉄板葺きも多く、サビが発生した場合、腐食が進みやすいです。特に、壁取り合いや軒先部分は腐食が早いこともあります。

屋根鉄板の釘打ちは、過去になんらかの補修をされた跡かと思われます。表面塗装の劣化も進んでおり、錆止め+再塗装で、ある程度は劣化を防ぐことは可能だと思われますが、経過観察が必要です。

D氏

板金屋根全体的に色あせしており、軒先部分に腐食がみられます。ハゼ部分(2枚の金属板の端を折り曲げ、引っ掛け合わせて継ぐ場合の折り曲げた部分)が開いている箇所もあり、屋根内に雨水が侵入する可能性があります。

ハゼ部分の開きについては原因はわかりかねますが、板金自体の色あせや腐食は一般的な劣化といえ、ハゼが開いた部分を曲げ直し、錆を落として塗装し直すことで復旧が可能かと思われます。腐食が見た目より進んでいて触ると崩れるような場合には金属板を重ね張りする補修も可能です。屋根工事なしはリフォーム事業者にご相談されると良いでしょう。

使う材料や塗料にもよりますが、屋根板金の補修および塗装で15~30万円程度はかかるかと思われます。

E氏

板金屋根に著しい変形・錆び。早急な補修が望ましい。

F氏

屋根の表面は色褪せ端部は腐食しており、大規模な修繕が望まれる状態と見受けました。最近、釘を打って何らかの対処をした形跡があったので、売主さんに日常生活においてどの様な不都合があったか聞いてみても良いと思います。

建物個別の環境に対して屋根の勾配が緩いことに起因する可能性もあるので、修理をご検討の際はコストよりも抜本的な改善策を優先しても良いケースではないかと感じました。

Yさん一家の会話

パパ「AさんとEさんの報告でなんか心配になってきたよ。Cさんは再塗装を勧めているね。」

ママ「Bさんは専門用語が出てきて私には難しいわ。『破風』ってなんて読むの？」

パパ「その点Dさんは用語も分かりやすく説明してくれているね。予算も書いてあって少し安心したよ。このくらいなら出せようだ。」

ママ「そういえばBさんとFさんは釘の事を書いているわ。なるほど、売主さんに聞いてみるという手もあるのね。」



編集部より

本物件、実際には寒冷地の海岸から2km圏内(塩害の恐れある地域)の物件です。不具合の発生メカニズムとしては、おそらく、軒先のつららによる氷堤→ハゼ部分の凍害(毛細管現象で吸い込んだ水が結氷。膨張しハゼを開く)→ハゼ内部で錆発生→水の滞留→塩害のサイクルを繰り返したものと想像されます。E氏のように端的な表現をするのも予断を与えないという意味ではあり得るでしょうし、とは言え、Yさん一家の言うように、あまりにも簡潔過ぎると、かえって不安感を煽る結果になりかねません。

写真で判別しにくいですが、実はB氏指摘の通り、破風だけは買取再販業者によって塗装のみ行われています。地上から見える部分のみ美装するという、少々悪意の感じられる修繕です。やはり屋根面に関しては上部からの観察も必須のようです。

基礎



インスペクション報告

A氏

給水、給湯配管をするために、人通口を大きく斫ったようですが、その後の補修工事をしていません。買取再販業者がよくするやりっぱなしの工事ですね。因みに基礎のひび割れからして、相当な床の傾斜が有るのでは？

B氏

床下の基礎立ち上がり部の状況。基礎部分に大きな穴が開けられています。鉄筋が露出したり、破砕面が乱れていることから、後で開けられたものと思われます。(もともと換気口?があった部分を広げたものと推測)また、周囲に基礎部分を貫通するクラック(ヒビ)も発生しています。本来予定されない形で、また内部の鉄筋を切るかたちで穴をあけてしまうと、基礎の強度が下がってしまいます。また、基礎の配筋が露出しているため、コンクリート内部の鉄筋まで金属腐食が進むと、これまた鉄筋コンクリート造の基礎の強度を下げることに繋がります。この住宅を長期にわたり使用する場合は、修繕が望まれます。

C氏

設備配管用に、基礎を一部解体した箇所だと思われます。基礎の鉄筋が露出した状態は、好ましいものではなく補修をオススメします。基礎を解体した付近の土台に柱が載っている場合、構造的に問題がある場合もあり注意が必要です。

基礎のひび割れは、新築時の施工不具合や地盤の問題など様々な原因が考えられますが、ひび割れ幅 0.5mm を超える場合は、瑕疵(見えない欠陥)が存在する可能性が高いこともあります。

D氏

浴室の床下に基礎の立上り部分をはつた(こわして孔をあけた)跡があり、鉄筋が露出しています。リフォームの際に配管を通すために孔をあけたものと思われます。

床下の湿気や空気との作用で鉄筋が腐食し、膨張して基礎のコンクリートを割る「爆裂」を起こす可能性があります。基礎は建物の構造耐力上主要な部分とされており、基礎の立上りに孔をあけることは建物の構造耐力に影響するため、あまり良いこととは言えません。また、鉄筋が腐食して「爆裂」が起こるとさらに基礎の耐力がさがり、建物に悪い影響を及ぼす可能性が高くなります。ただし、配管のために基礎をはつたのはここ1箇所だけでしたので、建物の構造耐力に与える影響もさほど大きなものではないと思われます。これ以上基礎の耐力を落とさないためにも、露出した鉄筋が錆びないように防錆塗料を塗るなどの処置で現状維持を図られるのがベターかと思われます。基礎工事ないしはリフォーム事業者にご相談されると良いでしょう。

この1箇所だけの補修工事ですので割高にはなる可能性が高く、一式4~8万円程度見ておかれると良いのではないのでしょうか。

E氏

後続工事(設備工事)による?著しい施工不良と思われる。早急な補強が必要。

F氏

基礎の一部に解体欠損がありました。何らかの施工事に解体されたと推測しましたが、鉄筋の腐食具合から最近の水道配管工事の時期とは明らかに異なります。

設計上の想定基礎強度への影響を懸念する事象ですが、修理等を講じるよりは、これまで20年間建物を使用出来ている事実も踏まえながら、既存物件に対する許容度を改めてご自問なされてみて良いかもしれません。

Yさん一家の会話

パパ「みなさんたくさん書かれていて、どうも厄介な状況みたいだな」

ママ「Eさんは一行だけど、早急な補修が必要と言っているわ」

パパ「Aさんは買取再販業者がよくやるやりっぱなしの工事と書いてある。いまの業者で大丈夫だろうか…」

ママ「BさんとCさんは鉄筋が出たままにしておいたらダメと言っているわ」

パパ「そうか、どこにお願いしたらいいのかな。どのくらいかかるんだろう？」

ママ「仕組みはよくわからなかったけど、Dさんがさび止めだけなら4~8万円と言っているわ」

パパ「Fさんは修理の前に考えてみるって…うーん」

ママ「地震が来たら怖いじゃない。私はイヤ!やっぱり直しましょう。」



編集部より

与条件として協力インスペクターの皆さんにお知らせはしていませんが、本物件は既に不同沈下が発生しています。不同沈下はおそらく造成盛り土によるものですが、基礎の人通口の脆弱な部分にクラックとして発生したようです。

F氏は遠回しに購入の可否の再考を促しているのが印象的でした。

床下



A氏

鳩の所は、どこから入ったのでしょうかね、死骸が転がっていました。

B氏

床下の状況。〇〇室付近の床下に、鳩の亡骸が見られました。床下換気口などから誤って侵入してしまい、出られなくなってしまったものと思われます。

※調査当日は立ち合いの方がいらっしゃらなかったため、許可なく当方で勝手に移動させることは行いませんでした。床下空間の衛生面上からも、早い内に、自然に還して頂くことが望ましいと思われます。

C氏

床下に鳥の死骸があることから、外周の基礎に進入可能な開口があると思われます。基礎の開口をきちんとふさぎ、小動物等の進入を防ぐことがまず必要だと思われます。鳥の死骸は、放置すると更なる害虫を呼び込む恐れがあるので、きちんと撤去したあとで、付近を消毒することをオススメします。

D氏

床下にハトの死骸がありました。まだ新しいもののようで、最近床下に入ってしまったものと思われます。基礎換気口など基礎まわりにハトが入れそうな孔や隙間はみられませんでした。天井裏に入ったハトが壁内を通過して床下に落下した、あるいはエアコンの配管孔から入ってしまった可能性も考えましたが、当物件では天井裏に入れそうな隙間や配管孔は確認できませんでした。原因不明です。

気になるようでしたら防虫防獣の専門業者にご相談されてみるのも良いかと思えます。

E氏

床下に小動物。どこかに進入の経路が存在。

F氏

建物の中に動物が入り込むと、気付にくい糞尿被害や構造木材の被損傷等の思わぬ悪影響に繋がる可能性がありますので、屋外の不要な隙間や空間は極力塞ぐ事が望ましいです。

ハトのご冥福をお祈りいたします。

Yさん一家の会話

ママ「きゃー！鳩！なにこれ！」

パパ「ちょっと落ち着いてよ。どこから入ったんだろう？AさんEさんも『どこから』って(笑)

こっちが聞きたいよ。」

ママ「いやあー！」

パパ「BさんとCさん、Dさんは侵入経路も書いてくれているから再発は防げるな。」

ママ「それより、そのあとに書いてあるけどコレもちゃんと処置しないと害虫とか出るみたい。」

パパ「Bさんは『許可なく動かすことはしませんでした。』とあるね。なるほど。」

Dさんは気になるようでしたら書いてあるぞ。俺は鳩の死骸くらい…」

ママ「気になるわよ！」

パパ「鳩のご冥福をお祈りいたします」



編集部より

爬虫類、小動物(哺乳類)の死骸はインスペクションの現場で散見される事象ですが、床下に鳥はさすがにレアケースです。また、前居住者の残置・放置物や、隠匿物(日記・猥褻物など)、新築時の施工者の残置物など様々な物が発見されますが、第三者立ち合いの無い場合、B氏のように、簡単に撤去できる物であっても、残置の上、撤去の判断は建物所有者に委ねるのが賢明と思われます。価値観は千差万別ですから。ただ、すぐに所有者に連絡がつくようであれば、意向確認の上、撤去してあげるのもインスペクターのホスピタリティとしてはあり得るかもしれませんね。

基礎2



インスペクション報告

A氏

人通口を大きく斫ったようですが、その後の補修工事をしていません。土台を止めるアンカーボルトがむき出しのままです。買取再販業者がよくするやりっぱなしの工事ですね。

B氏

床下の基礎立ち上がり部の状況。

基礎部分に大きな穴が開けられています。補強金物が露出している、破砕面が乱れているなどから、後で開けられたものと思われます。大きく3点、気になる点が見られます。

まず1つ目、この補強金物は、上部の土台や柱が地震時等にずれないように固定するために基礎に埋められるものなので、周囲のコンクリートが破壊されると意味のないものになってしまいます。

2点目、破壊された基礎の立ち上がり部に、補強の鉄筋が見受けられない点。通常の工法の基礎であれば、縦や横に補強のための鉄筋がおよそ30cm以内毎に入っておりますが、破断面をみるかぎり鉄筋が目視確認できませんでした。鉄筋の有無について、2次調査をお勧めします。

3点目、土台に水濡れによる腐朽菌の跡やコケの跡が見られます。上部の室からの漏水や恒常的な結露が発生している可能性が高いと思われます。

上記3点とも、建物構造の劣化対策上重要な内容なので、今後もこの住宅に住み続ける場合は、詳細調査の上での補修が望まれます。

C氏

基礎を一部解体した際に、基礎埋め込みのアンカーボルトが露出したと思われます。基礎と土台を固定するアンカーボルトの強度が不足し、地震時に構造的な強度が不足する場合がありますので、きちんとした補修が必要です。

D氏

浴室の床下に基礎の立上り部分をはつた(こわして孔をあけた)跡がありました。リフォームの際に何らかの理由で孔をあけたものと思われます。基礎は建物の構造耐力上主要な部分とされており、基礎の立上りに孔をあけることは建物の構造耐力に影響するため、あまり良いこととは言えません。また、基礎立上り内に鉄筋が見あたりません。鉄筋が入っていない可能性があります。築年数からして基礎が鉄筋コンクリートでない可能性は低いと思いますが、万が一鉄筋が入っていないとすると建物の耐力が足りていないということも考えられます。鉄筋探査など二次診断の受診をご検討ください。

建物の検査や診断を行っている建築士事務所ないしリフォーム事業者にご相談されると良いでしょう。また、基礎立上りの向こうに青色の断熱材のようなものが貼られていました。

基礎断熱工法を採用されたのかもしれませんが、浴室を基礎断熱とする場合、屋外の温度の影響をうけないよう浴室の床下を隙間なく断熱材で覆う必要があります。しかし、画像のように土台(基礎立上りの上に敷いた木材)の上に赤と青の配管が通っているなど隙間が空いています。これでは基礎断熱工法としてはなりたらず、ともすれば断熱材のために換気不良となり結露が発生する恐れもあります。

売主様を通して施工した業者にこういった考え方でこの施工になっているのか確認されてみてはいかがでしょうか。

E氏

著しい施工不良と思われる。早急な補強が必要。

F氏

基礎(解体箇所)については先述の通りです。土台にうっすらと染みや白カビがありました。湿気や温度差による結露の発生は木材に望ましくありませんが、青い断熱材を設置する事で緩和策が取られていました。少なからず配慮した施工と言えます。

Yさん一家の会話

ママ「また買い取り業者のやりっぱなしで書いてあるわ。大丈夫かしら」
パパ「もう契約はしているんだから、どうするかを考えないよ。」
ママ「Eさんはさらっと早急な補強がと書いてあるけど、どこがダメなのかわからないし」
パパ「BさんとDさんはものすごく詳しく書いてくれているよ。Bさんは大きく3点とまとめてくれているのでわかりやすい。どうも本当に危ない状況みたいだ。Dさんのように一度売主さんに聞いてみないとダメだね。」
ママ「これで家が倒れちゃうなら本格的な調査もしないと怖くて住めないわ」



編集部より

本物件、実は「基礎1」と同じ物件です。相当にヤンチャな施工業者だったようです。説明に濃淡あるものの、切実な感じは依頼者に伝わるのではないのでしょうか。B氏のように箇条書きにするのも、理解しやすいと思います。

床下2



インスペクション報告

A氏

基礎の天端モルタルを見れば、不同沈下が起きた後に土台揚げをしているか、又は基礎工事の施工不良の家ですね。現状も床の傾斜が有ると考えられますね。もう長年人が住んでいないのでは？

B氏

床下台所下の状況。台所からの排水管が途中で切れています。排水が床下に垂れ流しの状態であったと思われます。

調査時は水が溜まってなかったものの、建物が使用されている期間は基礎の白華部分まで水が溜まっていたものと考えられます。常時湿潤であった場合、附近の木材が腐朽し蟻害を受けている可能性があり、詳細な調査が望まれます。(基礎立上りにエフロレッセンス(白華現象)が見られることから、常時湿潤状態であったと推察されます。)床下に敷設もしくは吹き付けられていた断熱材が脱落し、水濡れした跡がうかがえます。

写真右にある配管が未接続で、台所の排水管として設けられたものと思われます。既存の排水管(簡易的)はおそらくこの管の中に差し込んで排水していたものと推察されますが、いずれ本来の排水工事の施工方法にはそぐわないやり方であるため、今後も上部をキッチンとして使用する場合は、改修工事が必要です。

C氏

台所流しの排水パイプが未接続であり、リフォームする場合は注意が必要です。床下の状態はあまり衛生的とは言えず、きちんと清掃することをオススメします。

D氏

キッチン床下の断熱材が落下しています。画像中央上からキッチンの排水ホースがたれ下がっているのがわかるかと思います。

もともとこのホースが画面右上の塩ビ管に差し込まれていたようで、経年劣化によってホースが縮み塩ビ管から抜けてしまったものと推測されます。これによってキッチンの排水が床下に排出され、床下の湿気を断熱材が含んで重くなり落下したのではないかと考えられます。

キッチンの排水管を適切に配管し直し(塩ビ管での直管接続をおすすめします)たうえで、床下の洗浄・除湿・消毒を行い、断熱材を施工し直す必要があるでしょう。

工務店やリフォーム事業者にご相談されてください。費用としては、10~20万円程度みておかれると良いかと思います。

E氏

台所の排水管がつながっていない。排水により床下の盛土部分がえぐられている。早急な補修が必要。

F氏

キッチンの排水設備は通常使用が出来ない状態でした。見えない部分に不具合がある可能性もあるので、修繕の際は当該個所の排水管の流水状態を必ず確認することを推奨します。

Yさん一家の会話

ママ「キッチン、気に入っていたのにこれじゃ使えないじゃない!」
パパ「Bさんがまた専門用語も交えてで報告してくれてるけど、具体的でわかりやすいよ。」
ママ「CさんもDさんもちゃんと掃除もした方が良いつて。あなたやってよね。」
パパ「俺が?いやいや、修理も10万から20万と書いてあるので、その時に一緒にお願しようよ。」
ママ「Fさんの言う通りこれで全部じゃないかもしれないので排水管も流れもちゃんと見てもらってね」



編集部より

本物件は、そもそも通常歩行で床が柔らかく違和感があった物件です。床下が浸透樹状態になっており、おそらく居住者も気づかないまま生活していた可能性があります。

小屋裏



インスペクション報告

A氏

カスガイ金物で補強する事が必要ですね。

B氏

屋根裏の構造材の状況。小屋束が母屋に接合されておらず、接合不十分な状況です。本来、小屋束の上部が母屋の下部の穴(ホゾ)に刺さり、かすがいなどの金物で接続されているべき部分が、ホゾから抜けて隙間に別の部材を挟んで屋根(下地の垂木)を支えている状況です。(その他の小屋束も同じ状況であれば)屋根との一体性が取れていないため、地震や強風時に屋根が落ちる可能性があるため、修繕が望まれます。

その他、屋根材を留める釘が垂木のラインとずれて打たれているため、垂木に屋根下地が十分に固定されていないと思われますので、修繕工事の際は合わせて確認されたい部分です。

※積雪地であったり風が強い地域の場合、構造強度上、屋根を支える垂木の寸法が小さい可能性があります。

C氏

屋根の構造材である母屋と、母屋を支える小屋束の寸法と接続が不十分です。新築時の施工不良と考えられ、台風時には強度が不足する場合がありますので、きちんとした金物での補強をオススメします。

D氏

小屋裏の束(画面中央の縦の木材)と母屋(もや=束の上に画面を横切るように置かれている木材)の間に細い角材が挟み込まれています。高さ調整が目的かと推測しますが、釘や金物による接続はされていないようです。

平時では大きな問題にはならないかもしれませんが、地震で建物がゆすられ挟んだ角材が外れたようなときにはこの部分の屋根が下がり、雨漏りの原因になる可能性があります。金物による補強を検討してください。大工さんないしリフォーム事業者にご相談されると良いかと思います。

費用については、ここ1箇所だけとなると割高になると思われますが、3~5万円程度はかかってくるかとおもわれます。

E氏

束の長さが不足し、母屋のほぞが露見。

F氏

小屋束の接合部に懸念がある個所がありました。点検時には建築時からの経年によるズレや破損等の二次的不具合はありませんでしたが、束を入れ替えて金物等で補助固定する等の接合補強をする事で建物としての健全度は改善すると思われま

Yさん一家の会話

パパ「さすがにこれは写真を見ても僕には何が悪いのかわからないや。

束とか母屋とかどれを差すのだろう？」

ママ「Aさんが『カスガイ』がどうとあって…わが子はカスガイとかいうアレ？」

長男「え、僕のこと？」

パパ「わはは、カスガイは補強用の金物のことだよ。おうちを守ってくれるんだ。

Bさんの説明でどこに入れるべきなのかは分かった気がする。

Dさんの報告も別の観点で詳しく指摘してくれていてわかりやすいね。

細い角材でごまかしていたんだな。」

ママ「応急処置だったのかしらね。Dさんの報告では修繕の目安も書いて

あるわ。パパ、これもちゃんと直してもらってね。」

パパ「先が思いやられるなあ…」

長男「おうちは僕が守るんだよ。僕はカスガイだもん」



編集部より

束上のパッキン、カスガイの未設置までは皆さんが指摘されています。写真なので判別しにくいですが、母屋の継ぎ手が束直上にあるのも、気になります。これも、依頼主(買主)が一般消費者である事を考えると、どこまで専門用語を使用して説明するべきか悩ましいところです。

まとめ

ホームインスペクターには今回のような一般の購入者を依頼主とする方から、不動産業者や建設業者などいわゆるプロを得意先にする方まで、いろいろなタイプがいらっしゃいます。

今回も様々な報告スタイルが揃いました。ここで大切なのは依頼者のリテラシー(読解能力)に合わせた報告だと思います。みなさんインスペクション報告の要件を満たされていると思うのですが、「通常の依頼者がだれなのか?」という点で個性が出たように思います。また、文中では詳しい報告を好んでいますが、報告は必ずしも詳しく長ければ良いというわけではありません。

ホームインスペクションも営利業務であり、自社内でのコストパフォーマンスを考えることも、長く続ける上では大切だと思います。例えば不動産業者や建設業者などプロ相手の場合は専門用語を効率的に使ってコンパクトな説明をする方が良い場合もあるのではないのでしょうか。

三原広聡(マーケティングプランナー)

編集部より

皆さんの技術的判断にさほど大きな違いは見られないものの、やはり説明の仕方に大きく個性が出たようです。また、企画の主旨に賛同し、つつい、いつもよりは長めのコメントになってしまったのではないのでしょうか。

- ・専門用語の使い方
- ・説明の長さ、密度
- ・アドバイスの範囲

これらに個性が出るのは当然なのですし、依頼者の立場やスキルによって変わってきます。一方、報告書の品質レベルを常に同程度にする事や、生産性を考えると、

- ・定型文などを用意する
 - ・専門用語の解説集を用意する
- なども今後、検討が必要かもしれませんね。

尚、本企画は不具合事象に対しての技術的見立ての正誤を比較するものではなく、普段、見る事のない他人の報告コメントを確認する事で、皆さんそれぞれがコメント作成について再考していただく事が目的です。

画像のみという少ない情報の中、企画に賛同し、ご協力いただいたインスペクターの皆さんに感謝申し上げます。